
異世界で看守に就職

白

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界で看守に就職

【Nコード】

N4367U

【作者名】

白

【あらすじ】

異世界に転生した。魔法あり、魔物ありの夢ある世界。しかし俺は安定を求め公務員になった。これで俺の老後は安心だ！と思っていたが現実は甘くなかった。

プロローグ（前書き）

はじめましてo_rこんにちは、白です。
駄文ですがよろしくお願いします。

プロローグ

0話 プロローグ

エンペドス大陸。この世界で最も大きな大陸だ。この大陸最小の国マルクス帝国は近年、急成長を遂げていた。

その勢いは凄まじく、40年でエンペドス大陸の全ての国を征服。この世界一番の大国となった。

それから30年後にはこの世界唯一の国となった。

なぜこんなにも急成長を遂げることができたのか？それは魔法技術の進歩にある。

「魔法」とは液体・固体・気体のどれにも属さない「精霊」に生まれつきもっている「魔力」を支払い世界を変革する行為である。この世界では「科学」のかわりに「魔法」が発達している。

その中でもマルクス帝国の魔法技術は別格なのである。

まず、国民の魔力保有数の平均値が他国に比べ、3倍はあること。大抵の人間の魔力の量は40～60メイト。

しかし、マルクス帝国の国民は120～180メイト。

（メイトとは魔力の単位でワットやジュールの様なもの。）

なぜこんなにも多いのか・・・それはマルクス帝国の人種にある。この世界には魔物が存在する。その中でも比較的賢く、人間に近い知能、もしくはそれ以上のものたちを「亜人」と呼ぶ。

「亜人」は魔力保有量が人間の6〜9倍もある。その魔力保有量に目をつけたマルクス帝国は「亜人同和政策」を進めた。亜人と仲良くなろう！という建前で行われたこの政策。しかし、実際は自由に生きていた亜人の生活を害すものだった。マルクス流の名前・言葉・文化を押し付け、住むところを奪い、亜人独特の文化を禁止した。

もちろん亜人側も抵抗した。しかし、圧倒的な数の暴力により支配を余儀なくされた。最終戦争「アデルの戦い」では人間、亜人双方に大きな死傷者をだした。

最初は彼方此方でテロ、反乱、独立運動がおきていたが、20年も経つとほとんどなくなっていた。

やはり、義務教育制度を行い小、中学院での

「マルクス国民は選ばれた民、それ以外は我等の道具。」という洗脳教育が功をそうしたのだらう。

40年も経つとほとんどの国民が亜人の血を受け継ぐようになり、魔力保有量が激増した。それに比例し国内の魔法研究も盛んになり、国力が一気に上昇した。

マルクス帝国が世界と手に入れてから30年後、この世界に異物が紛れ込んだ。この異物が世界の運命を大きく変えることになる。

プロローグ（後書き）

駄文乙！

一話 俺紹介

一話 進路

皆さんは「異世界転生」という物を信じるだろうか？

車に轢かれ。通り魔に刺されて。夜眠りについて。

気がつくと赤ん坊になっている。

（神様と会いチート能力を貰ったり、神様のミスで転生する輩もいるらしい）

俺の場合は前者、「公務員試験を受験後、帰宅途中乗っていた電車が横転し気がついた時には赤ん坊になっていた」

最初は混乱し、理解できず、元の世界に帰りたいと泣き叫んだが三年もするとこの世界の言語を覚え、文化に馴染んで、「帰れないならこの世界で精一杯生きよう。」と諦めた。

現在俺はもう13歳だ。小等学院三年・中等学院三年のこの国の義務教育を終えて、就職先を探している。ほかの子供は親の仕事を手伝ったり、上等学院に進学しているが俺はまだ決まっていない。

鬱だ。俺の就職先・進学先が決まらないのには理由がある。
「魔力保有量」が少なすぎるのだ。

・・・中二病ではない！

この世界には「魔法」が存在しているのだ。・・・本当だって！
最初は俺だって戸惑ったさ。

母が料理の時に指から火をだして薪を燃やし、水をだして消火して
たんだ。

まあ、一年もすれば馴れた。便利だし、面白いし。

この世界で魔法は無くってはならない道具だ。
その上、俺の住んでいる国は魔法実力主義。

魔法の上手さで人間の価値がほとんど決まってしまう。

魔法が上手いものは若くして成功を収める。

逆にどんなに勉強・剣術に秀でていようと、魔法が下手なら無能。

しかし、魔法は努力で何とかなるものではない。

魔法の上手さを決めるもの、それは魔力保有量である。

俺の住んでいる国の国民一人あたりの魔力保有量平均は140〜200メイト。

（メイトとは魔力量の単位である。）

・・・残念なことに俺の魔力保有量は80メイト。
下の下の下だ。

先にも述べたように魔法はこの世界では必要不可欠。
大工だって魔法で木材を運び、組み立てる。

農家は魔法で種を撒いて収穫する。

商人も魔法で商品を運び、加工する。

兵士は・・・もう魔法なしでは完全に無理だ。

魔力量〃才能

覆せない境遇だ。

全てを諦め、投げ出していた俺に一通の手紙が届く。

この手紙が俺の人生を大きく変えることになる。

一話 俺紹介（後書き）

才能ないなあ・・・

なんで他の作者の方々はあんなに上手くかけるんだろっ？

二話 手紙

二話 手紙

朝、家の前のポストを見てみると俺宛に一通の手紙が来ていた。

「マルクス刑務所」より。

・・・俺、何かヤバイことしたかな？

手紙を開封すると、一枚の紙が入っていた。

その内容を要約するとこんな感じだ。

「看守を募集している。三週間後、隣町で試験とやるので暇ならこい」

看守か・・・

精神衛生上は最悪な職場だが待遇や給料はいいからなあ。

でも、犯罪者を監視するなら魔法の技術が必要不可欠だよな。

高等な魔法がないと脱走に対抗できないから、、

・・・一か八か試験、受けてみようかな。

まず両親に相談しないと、

「母さん父さん、俺、看守の試験受けてみようと思うんだけど、いかな？」

「「いいわよ」

了承は得た。だがもつと止めたり、反対したりしないのか？看守って結構危険な職種だぞ！

「反対しないの？」

「お前は結構看守に向いていると思うぞ」

向いてる？俺が？

「・・・自覚がないのか、」

いやいや、ヘタレの俺が向いてるわけ無いでしょ。
弱いし、ビビりだし。

「まあいい、がんばれよ。」

「うん。」

あ、そうだ。

「父さん、仕事の方は大丈夫なの？」

「ああ、今日は夜勤だ。」

俺の父親は門の警備兵をしている。門の前に立ち、そこを通る馬車、人から入場税をとる仕事だ。

父は解析・防御系の魔法を得意としている。自慢の解析魔法を認められこの仕事に就いた。

その前は母と共に「冒険者」をしていたらしい。

「冒険者」とは。

・冒険者ギルドに所属し、ギルドに寄せられた仕事を請け負う者のことを指す。

主な仕事は、薬草の採取・貴重な鉱石の採掘・「魔物」の討伐・護衛任務・盗賊の討伐などなど。

稀に国からの依頼などがくる。

「魔物」とは。

・人類が誕生した際に神が誤って創ったとされている人類の敵。真実はわからない。

知能が低く、本能に従い活動している。反面、魔力保有量が人間よりも多く身体能力も高い。

（稀に亜人並みの知能を持つものが存在する。そういった者達を「魔族」と呼ぶ。）

彼ら人間を捕食、殺害、町の破壊活動を行つたため討伐対象となっている。

母は父とは違い、自然系攻撃魔法・幻術魔法が得意らしい。

自然系攻撃魔法。平和的な攻撃に思えるが実はかなりエグい魔法だ。木の蔓と鞭の様にして攻撃したり、木の根を相手の真下に出現させ串刺しにしたり。

幻術魔法は相手に幻覚を魅せて惑わす魔法。様々な応用が利くが、かなりの技術を要するため使い手は少ない。

母の幻術の使い方は冒険者業界ではかなり酷い使い方らしい。

自分の大切な人が植物の触手で〇〇〇されている幻術を魅せられるらしい。

そのため冒険者ギルドでは母は「強姦の森姫」と呼ばれているらしい。

・・・恐い、恐すぎるぞ母よ。

母の魔力保有量は400メイト
父は350メイト

平均よりも多い。

なのに俺は80メイト。なにがあった？

普通魔力保有量は遺伝するもので父親と母親の魔力保有量の合計の半分くらいになることが多い。

だが俺の魔力保有量は80メイトぽっち。

鬱だ。

豆電球並の光を3分くらい起こすのに掛かる魔力は1ロイト。

(1メイト=1000ロイト)

初級攻撃魔法である「魔力の矢」一矢の消費魔力が1メイト。

初級魔法80本分。

「魔力の矢」・・・プロのヘビー級ボクサーの本気の右ストレートと同等の威力の光(魔力)で出来た矢を放つ魔法。

とにかく俺の魔力量！どうした！？

この世界の实力者ランク（俺予想）

魔力量	ランク	
評価		
・ 50 ～ 100 メイト	屑	社
会の底辺		
・ 110 ～ 160 メイト	中流	中
流家庭		
・ 170 ～ 200 メイト	中の上	裕
福な家庭		
・ 210 ～ 280 メイト	上の下	役
人、エリート兵士、優秀な冒険者		
・ 300 ～ 350 メイト	上の中	職
業選び放題		
・ 400 ～ 500 メイト	上の上	1
万人に一人の逸材		
・ 550 ～ 700 メイト	上の上の上	1
00万人に一人の逸材		

・ 800～1000メイト

英雄

英雄

・ 1000メイト以上

測定不能

神

じゃ神の光臨じゃ！！

だ。多分。これは俺の偏見に満ちた考えだ。

ちなみに、看守はこの国ではエリート職種で魔力保有量の平均は300～400メイト。

・・・俺では無理だ。

でも納得できない自分がいる。魔力の量だけが全てじゃないんだ、努力でなんとかなるんだ。と証明したい。

「俺は証明してやる。才能が全てじゃないって！」

三時間後。こんな発言をした自分が恥ずかしくなった。
・・・中二病この世界でも感染するんだな

二話 手紙（後書き）

恥ずかしい。

超恥ずかしい。時間があれば編集したいが時間がない。

三話 試験

三話 試験

現在俺はマルクス刑務所の看守の試験を受けに隣町に来ていた。昨日この町に着いた俺は宿をとり、死んだように眠った。

おかげさまで現在10時。

試験開始時刻は10時30分。

宿から試験会場まで50分。・・・詰んだ。完全に。

全速力で走っているが間に合いそうにない！
使いたくはなかったが、アレを使うか！

「魔跳躍」

魔跳躍とは。

母から教わった魔法のひとつで足に魔力を込めて地面を踏みしめる瞬間に爆発させ物凄いスピードで走る魔法である。

使用魔力量は一步につき100ロイト。魔力の少ない俺には大きい

が背に腹はかえられない。

これを使えば100mを約3秒で走ることができる。

「うおおおおおおおおおおおおお」

何とか間に合いそうだ！行ける。

何とか俺は試験会場に到着できた。現在時刻10時28分。ギリギリだ。

さっそく会場の前にいる受付らしき女性に話しかけてみる。

「マルクス刑務所の看守試験の会場はここですよね？」

「ええ。受験者の方ですね？最初に魔力を測らせていただきます。よろしいですか？」

「ええ、、、、、」

そう言うとき女性は水色の水晶を取り出した。

これは「魔力測定器」でこの水晶に触れると自分の魔力の総量を量ることができるのだ。

俺は恐る恐る手を水晶に近づけた。手が水晶に触れた瞬間水晶に数字が表れた。

「72」

俺の現在の魔力の総量は72メイト。魔跳躍が響いたのか普段より8メイトも少ない

「72メイトですか・・・少々お待ちください。」

女性は責任者らしき人に話を聞きにいったようだ。

まさか、試験を受けれず門前払い！？

それはへこむぞ・・・

「お待たせしました、、ではこのプレートをつけて中にお入りください。」

よかった、試験は受けさせてもらえるんだ。

中に入ると屈強そうな男たちが百人程いた。

全員が俺にガン飛ばしてきた。

・・・何これ怖い。

それもそのはず、俺は今13歳の餓鬼。看守という職業はそれなりの実力がないとすることができない。そのためほとんどの受験者が上等学院卒業生か冒険者。餓鬼が来ていい場所じゃない。

その上、あのマルクス刑務所の看守試験だ。

俺も噂でしか聞いたことがないが、

・マルクス刑務所の看守は最強で一人で千の兵士を蹴散らすらしい

・受刑者全員の殺害した人数を足すとこの国の国民の数と同じらしい

・スリ、殺人、テロなど幅広い犯罪歴を持つものがいて受刑者総人数5万人。

（この国の人口はおおよそ6億人。しかし、戸籍に載っていないものもいる可能性が高いためおそらく10億人はいるだろう。）

・・・あれ？俺は何でこんな試験なんて受けに来てるんだ？

一時の感情に流されては身を滅ぼす。今日俺はひとつ賢くなったよ。母さん。

なんて考えていると、、

「それでは只今よりマルクス刑務所看守試験をはじめる。」

マルクス刑務所看守試験がついに始まった。

三話 試験（後書き）

うゝん難しい。文書が強引なんだな・・・
伝えたいことが多すぎて、うまく伝えられない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4367u/>

異世界で看守に就職

2011年7月21日21時00分発行